

学校評価シート（秋田県立大曲支援学校せんぼく校）

評価領域	教育課程
------	------

重点目標	地域（社会）に開かれた教育課程の実現と特色ある教育活動の展開		P
現 状	校内組織「『地域が教室』実行委員会」を設置するとともに、これまでの取組を整理し、活動の目的を明確にするため「地域が教室全体計画」を作成し各学部で活動を展開している。コロナ禍が明け、地域とのつながりを生かした活動の広がりが期待されている。また、教育活動に関わっている方々などを対象にした「『地域が教室』はじめの会・まとめの会」を今年度も実施し、教育活動に関する地域からの評価を児童生徒にも伝えながら、児童生徒自身が主体的に地域と関わる活動を目指している。		
具体的な目標	「『地域が教室』はじめの会・まとめの会」での意見を生かした「地域が教室」の取組の充実		
目標達成のための方策	<ol style="list-style-type: none"> 「地域が教室全体計画」を基にした、目的や全体像の共通理解 「『地域が教室』実行委員会」と教育課程検討委員会等の校内組織を連動させた効果的なPDCAサイクルの実践 学習成果の紹介を通して本校への理解推進を図る「せんぼくいきいき5デイズ」の実施 		
具体的な取組状況	<ol style="list-style-type: none"> 年度初めに「教育課程・教育資料説明会」を開催し、全職員で「地域が教室全体計画」を基に、目的や全体像と合わせて、3学部の取組内容や関連等について共有した。 「『地域が教室』実行委員会」で話題となった事柄や課題等について、教育課程検討委員会でも取り入れ、特色ある取組としてさらに検討、修正した。 「『地域が教室』はじめの会・まとめの会」の参加者からの助言を取り入れて「せんぼくいきいき5デイズ」の取組内容を考え、実践した。 		D
達成状況	<ol style="list-style-type: none"> 年度初めに、全職員で「地域が教室」をテーマとした学習活動の意義や目的、全体像について共通理解する機会があったために、日々の授業でも明確な目標をもって活動を展開した。 地域が教室実行委員会は、実際の活動について検討する側面がある。実際の活動での課題等については、教育課程検討委員会において教育課程全体として検討し、反映させるといった段階ができています。 「『地域が教室』はじめの会」で、「ポスターやリーフレット等に外国語表示をしてはどうか」という助言を取り入れ、中国や台湾からの観光客にも理解できるリーフレットを作成した。 		
自己評価	(評価) A	(根拠) 方策を講じたことによって、「地域が教室」を学習テーマとした取組の意義や目的について、全職員での共通理解が図られ、児童生徒も意欲的に取り組むことができた。子どもたちの様子について、地域の方々から評価されており、理解推進につながっている。	C

↑ 評価基準 ↓

A : 具体的な活動がなされ目標を達成できた
 B : 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない
 C : 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない

<p>学校関係者評価と意見</p>	<p>(評価) A</p>	<p>(意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「地域が教室」実行委員会の設置や「地域が教室全体計画」を作成するなどし、「地域が教室」を具現化するために、様々な形でアプローチされている。「地域が教室」を学習テーマとし、各学部の学習や取組が互いにつながりをもって展開されている。 ・「『地域が教室』はじめの会・まとめの会」で意見を取り入れており、地域を巻き込んだ教育活動に一層の深まりが感じられる。 ・子どもたちの個性を生かしたきめ細かな計画の下に課外活動につなげていってほしい。それが地域の方々の障害者理解につながり、ひいては就職支援などにもつながる可能性があると考え 	<p>C</p>
-------------------	------------------------	---	----------



<p>自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策</p>	<p>「地域が教室全体計画」に基づいた各学部の活動について、教育活動の意義・目的等の理解を深め、学部相互のつながりを意識した活動を展開し、一層の充実を図る。</p> <p>「『地域が教室』はじめの会・まとめの会」を中心として、地域の意見を吸い上げ、学校と地域が相互に活動を支え合い、高め合う取組を推進する。</p>	<p>A</p>
------------------------------	---	----------

学校評価シート（秋田県立大曲支援学校せんぼく校）

評価領域	進路指導
------	------

重点目標	将来を見据えたキャリア教育の充実と生涯学習の推進		P
現 状	<p>開校から学部毎に地域の伝統等を取り入れた作業学習を行っているが、地域の伝統等を取り入れることが中心になっており、生徒の実態や育てたい力や中学部から高等部へ段階を踏んだ成長については、職員間で作業学習についてのねらい、内容等を再確認する必要がある。</p> <p>県生涯学習センターや仙北市中央公民館と協力して行っている青年学級の活動へ、昨年度から在校生の参加を呼びかけ、在学中から地域の生涯学習への関わりがもてるようにしている。今年度も引き続き参加を呼びかける必要がある。</p>		
具体的な目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 キャリア発達を促す中学部・高等部の作業学習の充実と学部間の連携の推進 2 関係機関との連携による生涯学習の充実と在校生の参加の継続 		
目標達成のための方策	<ol style="list-style-type: none"> 1 職員研修会やアンケートを通して、作業学習で育む資質・能力を確認する。 2 アンケート結果を参考に、職員間で作業学習の基礎や各学部段階で育てたい力を再確認し、作業学習の内容を検討する。 3 昨年度に引き続き、児童生徒保護者へ青年学級や学校外で実施する生涯学習について案内を配付し、参加を呼びかける。 4 実施した活動について、ホームページや進路指導部報等で紹介していく。 		D
具体的な取組状況	<ol style="list-style-type: none"> 1 夏休み期間に職員の作業学習研修会を実施した。その後「作業学習で大事にしたい能力」についてのアンケートを実施した。 2 アンケート結果と合わせて「職業準備性ピラミッド」やせんぼく校のキャリア教育全体計画「各学部のキャリア教育の重点」を紹介し、作業学習の基礎や段階的な指導について確認した。 3 「せんぼく桜スクール」の3回の実施や、福祉施設の夏祭りやイベントなどの校外での案内を随時児童生徒保護者へ配付し、参加を呼びかけた。 		
達成状況	<ol style="list-style-type: none"> 1 作業学習での各学部段階で育てたい力については、アンケートで職員の意識状況を確認することができた。 2 児童生徒保護者へ青年学級以外の校外での生涯学習の場を随時案内し、参加を募った。参加者は少なかったが、どのような学習の場がいつ頃あるのかを知る機会とすることができた。 		
自己評価	(評価) B	(根拠) <ol style="list-style-type: none"> 1 各学部段階での作業学習の基礎は押さえることができた。今後は、キャリア発達の視点を押さえた学部間の連携を推進していきたい。 2 参加者は昨年度よりも少なかったが、生涯学習の場が校外でもあることを保護者が知る機会とすることができた。今後も継続して校外での生涯学習の場の情報提供を行い、SNS等を活用して実施について案内していきたい。 	C

↑
評価基準
↓

A : 具体的な活動がなされ目標を達成できた
 B : 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない
 C : 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない

<p>学校関係者評価と意見</p>	<p>(評価)</p> <p>B</p>	<p>(意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> 作業学習については、地域の技能や伝統を取り入れる事が中心になっていた点を見直し、各学部段階で育てるべき能力を生徒の実態を把握しながら明確化していく取組ができた。 キャリア教育に関しては職員のさらなる研鑽も大事だが、外部講師などを積極的に利用した体験型の学習も組み入れていくことはできないか。また、子どもたちは地域と接する機会が多いが、保護者にも勇気をもって地域と接する機会を提供していくことも大切と考える。 青年学級は思うように参加者が集まらないということだが、継続によって少しずつ認知されていくものと考え。これからも継続して行ってほしい。 生涯学習の場を在校生や保護者に紹介することで在学中から生涯学習への意識を高める手立てを講じた。参加できていない事情についてアンケートを取るなど、参加率向上に向けた取組が求められる。 	<p>C</p>
<p>自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策</p>	<p>作業学習については、今年度行ったアンケートを基に、各学部段階で必要な資質・能力を明確にして取り組む。また、外部講師の活用や他学部体験の実施など、児童生徒自身が将来への見通しがもてるよう学部連携したキャリア教育を推進する。</p> <p>生涯学習については、現在の取組の定着を図るとともに、参加率向上に向け、アンケートや保護者、地域への働きかけを積極的に行う。</p>		<p>A</p>